

# 若者ことば「マジ卍」の言語的特徴—「やばい」との比較を中心に—

工 藤 俊\*

## Linguistic Characteristics of Japanese Teen Slang *Mazi-manzi* -With Special Reference to *Yabai*-

Shun KUDO\*

### Abstract

This paper presents a descriptive analysis of Japanese teen slang *mazi-manzi* “マジ卍” or *manzi* “卍” in comparison with *yabai* “やばい.” One of their significant characteristics is that they can describe either positive or negative situations: *Tesuto goukaku, mazi-manzi!* “I passed the exam, woo-hoo!” (positive) or *Ame-ni nure-ta, mazi-manzi.* “I got wet in the rain, shoot.” (negative), and *Kono wan-piisu yabai-yo-ne!* “This dress is super cute!” (positive) or *Kaairo yabai-yo.* “You look so pale.” (negative).

While *yabai* has often been discussed in terms of syntax, phonology, semantics, and pragmatics in previous studies (Takeuchi (2007), Horasawa and Iwata (2009), Sano (2012), Konno (2015) etc.), *mazi-manzi* has not because of its specificity and temporality.

The interpretational similarity given above might lead us to consider that they share the same or similar linguistic features. A closer look at these two, however, reveals that they are to be distinguished. In particular, I would like to claim that (i) while *yabai* shows adjective-like behavior, *mazi-manzi* displays adjectival noun-like behavior, (ii) while *yabai* has adverbial use, *mazi-manzi* does not, and (iii) *mazi-manzi* imposes more burden of inference in the discourse than *yabai*.

### 1. はじめに

本論は、女子高生や女子大生を中心に広がる、話者の感情を表出する「マジ卍(まじまんじ)」または「卍(まんじ)」の言語的特性について、「やばい」との比較のもとに論じる。特に両表現の品詞、用法、談話的特徴に焦点を当てながら記述的に考察していく。なお、「マジ卍」の起源に関する通時的研究は、本論の趣旨から逸れる

ため別の機会に譲るとする。

現代日本語の口語表現における「マジ卍」は、主として話者の気分何らかの変化が生じた際にその感情を伝達する表現であり、特定の辞書的意味は持たないとされている<sup>1,2</sup>。

- (1) a. (不良っぽくて強そうな人を見た時)  
あいつマジ卍じゃね?  
b. (写真撮影の際の掛け声として) マ

\*人文学部 国際文化学科

ジ卍～！

- c. (大学受験や資格試験に合格したとき) テスト合格！マジ卍！

(<https://snsdays.com/other/majimanji-use-yomikata/>、下線部は筆者による追記)

(1a) によって表されるように、「マジ卍」には「不良っぽさがむしろかっこいい」という解釈が存在する。また、(1b) のように写真撮影の掛け声としての用法も存在する。さらに(1c) では、試験に合格した喜びを表出する手段として「マジ卍」が使用されている。本論では、(1c) のような感情表出表現として用いられる「マジ卍」に焦点を当てて考察する。

当該表現のもっとも顕著な特徴は、肯定的感情のみならず否定的感情まで表すことができる点である。

- (2) a. ステーキ美味しすぎ！マジ卍！  
(肯定的)

- b. iPhone 壊れた。マジ卍。  
(否定的)

(<https://snsdays.com/other/majimanji-use-yomikata/>)

(2a) の例では、口にした物の美味しさに感銘を受けた際、その肯定的感情を表出するために「マジ卍」が感動詞的に用いられている<sup>3</sup>。一方(2b) では、使用している iPhone が壊れたというネガティブな状況において、やるせない感情、あるいは苛立ちの感情を表出するために「マジ卍」が使用されている。このように、同一表現が対照的な感情を表すことができる点こそが、「マジ卍」の最大の言語的特徴といえよう。

このような解釈に関する特異性から、近年の口語表現として主に若者の間で広く用いられている、(3) に挙げるような「やばい」との類似性が示唆される。

- (3) a. (買い物をしている時、「すごくかわいい」の意味で) このワンピースや

ばいよね。(肯定的)

(洞澤・岩田 (2009:46))

- b. ちょっと顔色ヤバイよ。大丈夫？  
(否定的)

(洞澤・岩田 (2009:43))

「やばい」に関しては、武内 (2007)、佐野 (2012)、今野 (2015) などを中心に、統語、音韻、意味、談話等といった様々な言語学的観点から分析が行われている。そこで本論は、これらの先行研究で明らかになった「やばい」の言語的特徴と比較しながら「マジ卍」の文法的特性を探っていく。そして、両表現は感情表出表現という点では類似しているものの、それは一側面にすぎず、様々な文法的差異が存在することを提示する。本論では、とりわけ以下の三点を主張する<sup>4</sup>。

- (4) a. 「やばい」は形容詞的にふるまうのに対し、「マジ卍」は形容動詞的にふるまう。  
b. 「やばい」に存在する副詞的用法が「マジ卍」には存在しない。  
c. 「マジ卍」は「やばい」よりも聞き手への推論の負担が大きい。

## 2. 形容動詞的「マジ卍」と形容詞的「やばい」

本節では、「マジ卍」の品詞に関する考察を行う。『広辞苑<sup>7</sup>』(2018:2788)によれば、「卍」は元来「仏教」の象徴であり、現在では「寺院」を意味する地図記号として用いられている。つまり、本来「卍」は記号として機能し、言語としての役割を有していなかったため、当然ながら品詞が付与されることもなかった。したがって、「マジ卍」の品詞を論考する際は、語源的観点から議論する余地があるが、本論は共時的研究に焦点を絞ることにする。<sup>5</sup>

あらためて、「マジ卍」が用いられている例をみてみよう。

- (5) a. (好きなアーティストのライブチ

ケットが当選したとき) ライブのチ  
ケット当たった! マジ卍!

- b. (美味しいスイーツを食べたとき)  
このスイーツめっちゃ美味しい! マ  
ジ卍!

(5) のように、言語表現として用いられている例を観察する限り、「マジ卍」に関して少なくとも以下の2点が直感的にいえる。

- (6) a. 「マジ卍」は、出来事や対象に対する話者の個人的見解を伝達する。  
b. 「マジ卍」は、瞬間的な感情の発露として用いられる。

(6) の予測が真であるならば、「楽しい」や「嬉しい」といった感情形容詞、もしくは瞬間的な感情を表出する感動詞と同様のふるまいをすると予測される。しかし、活用が可能な形容詞とは対照的に、「マジ卍」はそれ自体が語幹になっていて活用しない。このことは、「マジ卍」が連用形活用語尾「か」+促音「っ」+過去を表す助動詞「た」という、形容詞特有の形式をとることができないことから明らかである。<sup>6</sup>

- (7) a.\* (友達と久しぶりに再会して遊んだ時の感想として) マジ卍かった。  
b.?? (友達と久しぶりに再会して遊んだ時の感想として) マジ卍った。

(7a) の例からも明らかのように、「卍」は形容詞のような活用をすることはできない。そして(7b) の例はそもそも活用語尾がなく、規範文法から逸脱した例であるが、やはり容認度は著しく低い。一方、「やばい」は上記のような活用が可能である。

- (8) A: あの映画やばかったねー!!  
B: ねー。めっちゃ感動したよね。

(洞澤・岩田 (2009:46))

(8) の会話における話者 A の発話のように、「やばい」は語幹「やば」+連用形活用語尾「か」+促音「っ」+過去を表す助動詞「た」という

形式をとることが可能である。このように、「やばい」は形容詞的なふるまいをみせる。

一方、「マジ卍」には形容動詞の終止形活用語尾「だ」や、連体形活用語尾「な」を付加することができる。

- (9) a. しかし本当に今の若者たちはマジ卍だ。

(<http://sunfre.net/2018/04/25/majimanjinotukaikata/>)

- b. (コンビニで販売されるコラボスイーツについて) マジ卍なスイーツの動きにも注目したい。

(<https://blogs.mbc.co.jp/smile/3614>)

(9) の事実から鑑みるに、「マジ卍」は形容詞ではなく形容動詞としてのステータスを保持しているとみなすのが妥当であろう。このことは、形容動詞の終止形活用語尾に接続する以下の例の方が、先に挙げた(7) の例よりもはるかに自然であるという、日本人女子大生インフォーマントの意見からも説明される。

- (10) (友達と久しぶりに再会して遊んだ時の感想として) マジ卍だったわ〜!  
(cf. (7))

以上をまとめると、「やばい」は主に形容詞的ふるまいをみせるのに対し、「マジ卍」は主に形容動詞的ふるまいをみせることが明らかになった。ただしあくまでも、両表現はそれぞれ形容詞・形容動詞としての用法を有しているだけであり、各々の品詞を形容詞または形容動詞と断定するにはさらなる精査が必要である。その理由として、両表現は感動詞としての側面も持つことが挙げられる。両表現をそれぞれ形容詞・形容動詞と断定するならば、他品詞との決定的な違いを明示する必要がある。したがってここでは、「やばい」は形容詞的用法、「マジ卍」は形容動詞的用法を有していると述べるにとど

めておく。

### 3. 「マジ卍」と「やばい」の用法

#### 3.1. 「やばい」の用法 (洞澤・岩田 (2009))

##### 3.1.1. 導入

本節では、「やばい」に関する先行研究を概観し、「マジ卍」との共通点および相違点を探るきっかけにする。これまで述べられてきたように、「やばい」は、本来的には否定的評価を表す形容詞であるが、肯定的評価をも表す用法が、特に若者ことばとして浸透している (今野 (2015) 他)。

(11) a. 授業サボっちゃって、今度の試験、  
やばいよ。

b. (第1回 World Baseball Classic で日本が優勝した際のイチロー選手のインタビュー) こんなすばらしい仲間に出会えて、やばいっすね。

(武内 (2007:1)、下線部は筆者による追記) 本来的には (11a) のように、焦りや動揺といった否定的感情を表すのが「やばい」の一般的な用法であった。しかし近年では、(11b) のように肯定的な感情を表出するときの手段としても、「やばい」を用いることができる。実際、若者ことばとしての「やばい」の語義として、大辞林第三版 Weblio 辞書・百科事典は、「若者言葉では「格好良い」を意味する肯定的な文脈から、「困った」を意味する否定的文脈まで、広く感嘆詞的に用いられる」と定義している。

この、形容詞「やばい」に関しては、今までに広範な研究が行われている (武内 (2007)、佐野 (2012)、今野 (2015, 2017) 等)。なかでも、「やばい」に関する統計データをもとに、当該表現の叙事的用法、独立語的用法、副詞的用法を提示した洞澤・岩田 (2009) の分析は示唆的である。以降の議論では、洞澤・岩田 (2009) が提案する「やばい」の3用法を簡単に概観し、

それらの用法が「マジ卍」にも存在するか否かを検証する。

##### 3.1.2. 「やばい」の叙事的用法

まずは、否定的解釈を得る叙事的用法について概観する。(12) の「やばい」は、出来事の状態をネガティブに評価する属性形容詞として用いられている。

(12) a. (ピンチだったり、どうしようもないときに)

A: レポート忘れてた!! 明日までだよ~。

B: それ、ヤバイって。

(洞澤・岩田 (2009:43))

b. (友達の様子が辛そうな場合) ちょっと顔色ヤバイよ。大丈夫?

(=(3b))

(12a) の会話では、友人 A がレポートの提出締切日を忘れて不都合な状況にあることに対して、話者 B が個人的見解を述べるために「やばい」を用いている。(12b) も同様に、友人の顔色が悪いことに対する懸念を述べるために「やばい」が否定的に用いられている。

一方、肯定的な意味で用いられている属性形容詞「やばい」も多く存在する。

(13) a. (試合で活躍できた時) 1 試合で5得点も入れるなんて私やばいかも。

b. (買い物をしている時、友だちの独り言として「すごくかわいい」の意味で) このワンピースやばいよね。

(洞澤・岩田 (2009:46)、

下線部は筆者による文言の変更)

(13a) は、自身の活躍を高く評価するために「やばい」が用いられている。(13b) も、眼前にある服に高評価を与えるという意図で「やばい」が用いられている。

### 3.1.3. 「やばい」の独立語的用法

次に「やばい」の独立語的用法を概観する。この用法は、叙述的用法が独立語的に用いられる例であり、感動詞として文中で機能する。

- (14) a. (朝寝坊して、バイトに間に合いそうもないある朝、目覚ましを見たたん) やばい、セットしてたのに！  
b. (車を運転していて) やべー、ぶつかるよこだった。

(洞澤・岩田 (2009:47))

上記の2例は、好ましくない状況に対して、話者の否定的感情を「やばい」もしくは連母音融合「やべー」によって表している。洞澤・岩田によると、これらは、ある出来事に対する話者の感情表現としては叙述的用法と同じであるが、発見的出来事に対する話者の瞬間的な否定的感情の表現であるという点で、属性形容詞の側面が薄れ、感情形容詞としての側面が強くなると述べている。

この独立語的用法にも肯定的解釈を得る例が存在する。

- (15) a. (格好いい人をみたとき) やばい、あの人カッコいい。  
b. (ツーリングをしていて、夕方の海がとてもきれいだったとき)  
A: ねー、あれ見て！ヤバイ、めっちゃきれい！  
B: うわあ、すごいきれい。マジでヤバイねー。

(洞澤・岩田 (2009:48))

(15)における「やばい」は、(14)の例とは対照的に、ある出来事に対して肯定的な心的態度を示すために用いられている。「やばい」の独立語的用法は、それが否定的であれ肯定的であれ、話者の感情の瞬間的発露として用いられており、ゆえに感動詞として機能しているといえる。

### 3.1.4. 「やばい」の副詞的用法

最後に、程度を強調する副詞として文中で機能する、「やばい」の副詞的用法を概観する。

- (16) a. (新しくとった授業の感想を聞かれたとき) やばいくらい難しかった。  
b. (怒っているときに) やばいうざい。

(洞澤・岩田 (2009:50))

否定的解釈を得る「やばい」の副詞的用法は、(16a)のように、その多くが「やばいくらい」や「やばいほど」という形式をとる。また(16b)では、「やばく」とは活用せずに、直接他の用言を修飾する拡張用法として、「やばい」が用いられている。

そして他の用法と同様に、副詞的用法にも肯定的解釈を得る例が存在する。

- (17) a. (何か目立っていたり、すごかったりする物などに使う) この車ヤバイくらいカッコいい。  
b. (かわいいものを見たときに) あれやばいかわいい。  
c. (友達とケーキを食べに行き、おいしいと表現するように) ヤバうまっ。

(洞澤・岩田 (2009:51))

否定的解釈を得る副詞的用法「やばい」と同様、肯定的解釈を得る場合も「やばいくらい」といった形式をとり、後続する用言の程度を強調する。また、(17b)も(16b)と同様に、「やばい」が活用しないで後続の用言を修飾している。さらに(17c)では、終止形活用語尾「い」の支えなしに用言「うまっ(うまい)」を修飾している。このように、「やばい」は文中で程度副詞として機能する。

## 3.2. 「マジ卍」の用法

### 3.2.1. 導入

続いて、洞澤・岩田(2009)が提案した「や

ばい」の3用法と照らし合わせる形で、「マジ卍」のふるまいを検証する。なお、3.1.3.「やばい」の独立語の用法で述べたように、洞澤・岩田は属性形容詞と感情形容詞に言及している。そこで本節では、否定的解釈・肯定的解釈という分類基準以外に、属性形容詞・感情形容詞という分類法も視野に入れながら「マジ卍」の用例を考察する。

なお、「やばい」は形容詞的ふるまいをみせるのに対し、「マジ卍」は形容動詞的ふるまいをみせることを2節の分析で明らかにした。このことから、両表現を並行的に比較検証すること自体に疑問を抱く人もいるかもしれない。しかし、本論で議論しているのはあくまでも用法であるので、ここでは両表現を同列に扱うことにする。

### 3.2.2. 叙述的用法

まずは、属性について述べる「マジ卍」の叙述的用法について検証する。

(18) a. テストマジ卍だわ…。(否定「厳しい」)

(<http://www.biborock.com/entry/new-word-used-by-japanese-young-girls>)

b. (大食いの友達がケーキをホールで食べようとしているとき) おまえ、マジ卍だわ～！(肯定「すごい」)

村上(2013)によると、「厳しい」と「すごい(凄い)」は属性形容詞に分類される。(18a)のように、試験が翌日に迫っているにもかかわらず勉強が進んでいないという否定的状況について、「厳しい」の代替表現として「マジ卍」を用いることができる。また(18b)のように、友人の健啖家ぶりに驚いたという状況で、肯定的評価として「マジ卍」を用いることができる。

続いて、感情形容詞的にふるまう「マジ卍」

の叙述的用法の例をみてみよう。

(19) a. A: ねえ、となりのクラスの○○くんって顔が怖いよね！

B: あの人の顔って、マジ卍って感じだね。(否定「怖い」)

A: うん。確かに、マジ卍って感じがするよ。(否定「怖い」)

(<https://kotoba-map.com/1700.html>)

b. 遂に彼女が出来た！卍だわ！！(肯定「嬉しい」)

(<https://workfreelife.net/archives/932>)

村上(2013)は、「怖い」と「嬉しい」は感情形容詞に属するとしている。(19)の例文における「(マジ)卍」は、これらの代替表現として用いることが可能であり、したがって意味機能的には感情形容詞と同類であると考えられる。

### 3.2.3. 独立語的用法

次に「マジ卍」の独立語的用法について考察する。洞澤・岩田(2009:48)が述べているように、独立語的用法における「やばい」は属性面よりも感情面が強くなる。これは「マジ卍」も同様である。したがって本稿では、独立語的用法の「マジ卍」は感情形容詞としての用法に限定して検証する。

(20) a. 雨に濡れた。マジ卍。(否定「悲しい」)

(<https://snsdays.com/other/majimanji-use-yomikata/#i-4>)

b. ステーキ美味しすぎ！マジ卍！

(肯定「嬉しい」) (= (2a))

(20)の例は、助動詞等の語尾に接続することなく、独立語としての役割を担っている。これらの「マジ卍」は、「悲しい」や「嬉しい」といった感情の瞬間的発露として用いられており、ゆ

えに独立語的用法とみなすことができる。

### 3.2.4. 副詞的用法

最後に「マジ卍」の副詞的用法を考察したいところだが、以下の「やばい」との比較から明らかかなように、当該表現に副詞的用法は存在しない。

- (21) a. {\*卍/やばい} くらい難しかった。  
(否定)  
b. この車、{\*卍/やばい} くらいかっこいい。  
(肯定)  
c. {\*卍/やばい} うざい。(否定)  
d. あの人 {\*卍/やばい} キレイ。  
(肯定)

(21a, b) は、程度を表す副助詞「くらい」が後続している例であるが、その解釈が否定的であれ肯定的であれ、「やばいくらい」は可能であるのに対し「卍くらい」は容認されない。また、(21c, d) の「やばい」は、「やばく」とは活用せず、「うざい」や「キレイ」といった用言を直接修飾している拡張用法である。この場合も「卍」との相性は悪い。以降の議論で詳述するが、(21) にみられるような副詞的用法における「やばい」と「卍」の文法性の差は、各々の表現が言語としての意味を保持しているか否かに還元される。つまり、「卍」は言語としてのステータスが確立していないがゆえ、その意味が明確でないのに対し、「やばい」は英語の程度副詞 *very* のように、強調副詞としての役割を担うという立場を確立していることが、(21) の文法性に反映される。

### 3.3. 「やばい」と「マジ卍」の用法まとめ

以上、洞澤・岩田 (2009) が提案した「やばい」の3用法を、「マジ卍」に照らし合わせることで、当該表現の文法的ふるまいを検証してきた。その結果明らかになったことは、「マジ卍」

には述語的用法および独立語的用法はあるが、副詞的用法は存在しないということである。また、述語的用法と独立語的用法においては、「やばい」と同様、それぞれ否定と肯定の両解釈が存在することもあらためて明確になった。

### 4. 「マジ卍」の語用論的特性

本論の最後に、「マジ卍」の談話的・語用論的側面について、「やばい」との比較のもとに考察する。基本的に「やばい」も「マジ卍」も、解釈可能な前提情報が十分に提示されていない限り、それが肯定的に用いられているのか、それとも否定的な解釈を得るのかを判断することは困難である。

- (22) a. うわっ、やばっ！  
b. うわっ！マジ卍！

(22a) の「やばっ (やばい)」は、たとえば、美味しいものを食べた際の、感動の気持ちの瞬間的発露と解釈することもできるし、定期テストで赤点をとってしまった際の悲観的感情の吐露と捉えることもできる。(22b) の「マジ卍」も同様である。つまり、前提となる情報がない限り、これらが肯定的に発せられているのか、それとも否定的に発せられているのか不明なのである。

しかし、「やばい」は発話の冒頭に使用することができるのに対し、「マジ卍」はできないという差が存在する。

- (23) a. (格好いい人を見たとき) {やばい/  
\*マジ卍}、あの人かっこいい。  
b. A: レポート終わった？  
B: {やばい/\*マジ卍}！忘れてた！

(23a) は、顔立ちの良い人に対して、見た目に関する肯定的評価をする場面であるが、その肯定的感情を「やばい」によって瞬間的に言語化できるのに対し、「マジ卍」でその感情を瞬時に表出することは容認されない。同様に (23b)

の談話は、課題レポートの存在を忘れていた話者Bが、焦りの感情を表出する場面であるが、この場合も「やばい」は容認される一方、「マジ卍」は容認度が著しく下がる。

しかし、(23)における話者Bの発話の順序を逆にすると、「マジ卍」も容認されるようになる。

(24) a. あの人かっこいい。マジ卍！  
(cf. (23a))

b. A: レポート終わった？

B: 忘れてた！マジ卍！

(cf. (23b) 話者Bの発話)

なぜ、独立語的用法における「やばい」と「マジ卍」の間には、このような文法性の差が生じるのだろうか。この問題を解消する鍵となるのが、両表現の定義である。

(25) やば・い《形》

1. 不都合である。危険である。「-・い事になる」

2. のめり込みそうである。「この曲は癖になって-・い」

(『広辞苑<sup>7</sup>』(2018:2957))

定義1および定義2から明らかなように、現代口語表現における「やばい」は、詳細な状況について述べることはできないものの、「良い(GOOD)」もしくは「悪い(BAD)」という意味成分を有している。したがって、解釈のために必要な情報が乏しい文脈でも、出来事や対象が「良い」のか「悪い」のかさえ把握できれば、当該表現が肯定的な意味で使用されているのか、もしくは否定的なニュアンスで用いられているのかがわかる。

一方「卍」は元来、言語としての機能は持たず、「寺院」を表す記号でしかなかった。その後、現代日本語において一言語表現として用いられるようになったが、「やばい」の肯定的解釈のように、記号としての「卍」に新たな言語的意

味が付加されたというよりは、特定の意味を持たないまま記号から言語に変化したと考えられる<sup>7</sup>。したがって、「マジ卍」という表現のみから解釈の手がかりをつかむことはほぼ不可能であり、適切な解釈を得ようとする際は、当該表現よりも前に十分な前提や言語情報があることが求められる。このような理由で、聞き手に与える推論の負担は、「やばい」より「マジ卍」のほうが大きいといえる。

以上を踏まえ、(23)の例を再考してみよう。

(23a)が表す状況は、往々にしてプラスであると考えられる。そのうえで話者が「やばい」を用いた場合、当該表現が表す意味は「良い」か「悪い」の二者択一であるという性質から、聞き手は当然、「良い」という意味で用いられていると判断することができる。一方「マジ卍」は一言語表現ではあるものの、特定の意味を持たないため、いかようにも解釈できる状態にある。したがって、「マジ卍」がどのようなニュアンスで用いられているのかを把握するには、(23a)のような状況が与えられるだけでは不十分なのである。また、(23b)の談話は、話者Aの問いかけに対し、話者Bがマイナスの感情を伝達しようとしている場面である。話者Bが「やばい」を用いるのであれば、「やった！」等の「良い」というプラスの解釈は文脈にそぐわず、話者Aは必然的に「まずい」という否定的解釈で用いられていると推論するであろう。一方の「マジ卍」の例では、話者Bの心的態度を伝えるには、話者Aに対する推論の負担があまりに大きく、適切な解釈が得られない。

対照的に(24a)では、「あの人かっこいい」という話者の肯定的な見解を、「マジ卍」の前ですでに言語化しているので、聞き手が話者の心的態度を推測するのは、(23a)よりもはるかに容易である。言い換えると、容姿端麗な人が眼前にいる状況に加えて、さらに話者が自身の

心的態度を表明して初めて、「マジ卍」が適切に解釈される状況が整ったといえる。(24b)でも、「忘れてた」という発話によって話者Bのネガティブな心的態度が最初に示されているため、話者Aは談話の方向性が容易に予測できる。したがって、この状況での「マジ卍」は、否定的解釈を得るものとして使っていると、聞き手は判断できるのである。

ここまで、「やばい」と「マジ卍」の談話的・語用論的特性について概観した。以上の議論をまとめると、「やばい」は、語義がある程度明確なため、適切に解釈するために必要な情報はそれほどない。一方「マジ卍」は、「卍」自体に言語的意味が十分に備わっているとはいえないので、その分聞き手の推論の負担が増える。したがって、当該表現を解釈する際は十分な情報を必要とする。

## 5. おわりに

本稿は、若者ことばのひとつである「マジ卍」の文法的特性を、「やばい」と比較することで明らかにした。「マジ卍」の主な言語的特性としては、(1) 形容動詞もしくは感動詞としての側面を持つ、(2) 副詞的用法がない、そして(3) 聞き手への推論の負担が大きい、以上の3点が挙げられる。

特に「マジ卍」の談話的・語用論的特性は、「求

められているだけの情報を提供せよ」という、Griceの提唱した「量の公理」に違反しているようにみえる。ただし、意味的に“カオス”な状況にある「(マジ) 卍」をあえて使用することによって生まれる語用論的効果を駆使しながら、若者たちは対人関係を調整していると考えられる。この「マジ卍」の対人関係調整機能については、本論とは別に議論したい。

## 注

\* 本稿は、日本英語教育英学会第39回大会(2019年3月於桜美林大学PFCキャンパス)にて、「「マジ卍」について—「やばい」との比較—」のタイトルで行った口頭発表、およびInternational Cognitive Linguistics Conference 15(国際認知言語学会第15回大会、2019年8月於関西学院大学)にて、“The Interpersonal Function of Japanese Teen Slang *Mazi-manzi*”のタイトルで行ったポスター発表の内容に基づいている。各発表で有益なコメントをくださった先生方、研究過程で多くの示唆を与えてくださった石川創氏、英語インフォーマントとしてご協力いただいたTaron Plaza氏、日本語例文の容認度判断にインフォーマントとして協力していただいた学生の方々に深く感謝申し上げます。言うまでもなく、本稿

		「マジ卍」	「やばい」
品詞		形容動詞的／感動詞的	形容詞的／感動詞的
用法	叙述的用法	✓	✓
	独立語的用法	✓	✓
	副詞的用法	×	✓
談話的・語用論的特性		適切に解釈するために、十分な情報を必要とする。	適切な解釈に必要な情報はそれほどない。

「マジ卍」と「やばい」の文法的特性の比較

における誤りや不備はすべて筆者の責任によるものである。

- 1 「マジ卍」はフジテレビの「めざましテレビ」において、2016年女子高中生流行語大賞を獲得した。さらに、女子中高生向けのマーケティング支援を手がける株式会社 Appreciation Modesty Fullpower(AMF) によるトレンドリサーチにおいて、2017年 JC・JK 流行語大賞のコトバ部門の4位に入賞した。JCは女子中学生、JKは女子高校生の略語である。ただし、日本人女子大生インフォーマントによれば、2019年12月現在では当該表現を使用する若者は少数で、「マジ卍」はすでに時代遅れの表現であると位置づけられているようである。
- 2 「マジ卍」に関する先行研究および例文データが乏しい関係で、本論で例文として挙げているものは、主に学生使用者からのデータおよびインターネット上で使用されているデータを用いている。
- 3 感動詞は、感嘆詞または間投詞とも称されるが、各表現間に明確な区別はない。したがって本論では、該当する表現はすべて「感動詞」に統一して議論を進める。感動詞および感嘆詞の用語や定義の違いおよび変遷については石川(2018)を参照。
- 4 形容詞と形容動詞を区別する学者としない学者がいるが、形態上の違い(例:一般的な形容詞の終止形は「い」であるのに対し、形容動詞は「だ」などが接続する点)が明確に存在することに注目し、本論では、これらは別の品詞として扱う。
- 5 加えて、「マジ卍」の音韻的側面も論考すべき問題ではあるが、本稿で詳細に踏み込むことは控えたい。有光(2019:155)は、『まんじ』が「マジ」の強調形で「本当に」という意味になっていると推測されている。

と述べている。この提案が真であるならば、それが言語的に何を意味しているか、そしてどのような語用論的効果をもたらすのかといった問題について考えなければならない。この点については、特に音韻論および語用論の観点から検証する必要があるが、機会を改めたい。

- 6 (7b)の容認度が“??”であるのは、この表現自体、完全に容認されないとはいい切れないと数名の日本人女子大生インフォーマントが述べたことによる。インフォーマントは、この表現自体を耳にしたことはないが、仮に話し手がこの表現を使用しても、聞き手としてその意図は辛うじて理解できると述べている。
- 7 この提案に関してはさらなる論証が必要になってくるが、「卍」という言語の定義があいまいなまま若年層に使用されているのは確かな事実であるので、本稿ではこの事実を踏まえて議論を進めることにする。

#### 参考文献

- 有光奈美(2019)「現代日本語における「まんじ」の記号と使用者による意味理解のメカニズム ―表現できないものを表現したい場合の一例―」『経営論集』第92号, 153-164, 東洋大学。
- 石川創(2018)「感動詞の定義について」『駒沢女子大学 研究紀要』第25号, 25-37, 駒沢女子大学。
- 今野弘章(2015)「副詞的「やばい」の公的表現志向性とその動機付け」『言語研究の視座』, 深田智・西田光一・田村敏広(編), 325-341, 開拓社。
- 今野弘章(2017)「デフォルト志向性の解除」『三層モデルでみえてくる言語の機能としくみ』, 廣瀬幸生・島田雅晴・和田尚明・金

- 谷優・長野明子（編），69-89，開拓社.
- 佐野真一郎（2012）「「やばい」の変化を分析する」『はじめて学ぶ社会言語学—ことばのバリエーションを考える14章』，日比谷潤子（編著），209-226，ミネルヴァ書房.
- 新村出（編）（2018）『広辞苑（第七版）』，岩波書店.
- 『大辞林（第三版）Weblio 辞書・百科事典』，三省堂. (<https://www.weblio.jp/cat/dictionary/ssdjj>)
- 武内道子（2007）「認知語彙論への試み—「やばい」をめぐる—」『人文学研究所報』第40号，1-9，神奈川大学.
- 洞澤伸・岩田奈津紀（2009）「若者たちの間に広がる「やばい」の新しい用法」『岐阜大学地域科学部研究報告』第25号，39-58，岐阜大学.
- 村上佳恵（2013）「感情形容詞の使用実態—属性形容詞との対比を通して—」『学習院大学国語国文学会誌』第56号，75-60，学習院大学.

